



新幹線や
高速自動車道によって
もたらされる
豊かな生活が
思い描かれています。

住宅、公園、街路など
住みよい町づくりを
めざして
さまざまな施策が
推進されました。



1975
昭和50年



第18号

1971
昭和46年



第4号

1970
昭和45年



第1号

ふくしま県民だより第1号が発行されたのは昭和45年。本号で創刊200号を迎えるにあたり、
県民の皆さんと自治体の架け橋としての役割を担ってきた
広報誌35年間の歩みを振り返ってみましょう。

愛されて200号 県広報誌の35年



(昭和50年6月1日発行)

当時ブームとなっていたテレビエンターテインングを楽しむ
若者の姿が紹介されています。



(昭和46年12月10日発行)

表紙は、空襲したばかりの県庁西庁舎。
当時は東北の高さを誇っていました。



(昭和45年8月1日発行)

第1号の表紙は、偶然にも本県がサッカーと
深く関わっていくことを予感させるものでした。

この号から、
年6回の発行となり、
紙面もコーナーが
確立されて、
現在のスタイルに
近くなっています。
自然保護や不況対策、
住環境整備などが
取り上げられていて、
今も抱えている課題が
すでに表れていたことが
わかります。

紙面はカラー化され、
ページ数も8ページに
増えています。
不定期であった発行も、
翌年から年4回となりました。
記事では、
東北新幹線路線決定や
只見線開通などの
明るい話題のほか、ドルショック
(金ドル交換停止)対策
としての緊急融資制度などが
掲載されています。

第1号はタブロイド判
4ページで発行。
表紙は、
福島市立第一中学校
サッカー部の皆さんです。
当時大きな社会問題と
なっていた公害や
交通事故に対する
取り組みのほか、
15年後の福島を
予想した長期展望が
掲載されています。

県では、この2つの機能をお互いに連携
させながら、これからも県民の皆さんと
の架け橋となるような広報を目指します。

**広聴……ご意見やご要望など県民の皆さん
の声を広くお聴きして、施策の立案や事
業の実施に生かしていく。**

**広報……県の施策や事業など行政情報を
わかりやすく提供し、県民の皆さんの理解
を得、参加してもらう。**

行政PR活動としての広い意味での広
報は、広報と広聴に分けることができます。
それぞれ次のような役割を担っており、
しばしば車の両輪に例えられます。

その理由は、日本国憲法の基本原則で
ある「国民主権」にあります。政府・行政
は、主権者（統治者）である国民に対して、
政府が何を行っているのか、どのような行
政サービスが受けられるのかを知らせる
とともに、国民の期待や要求を正しく
知り、行政活動に反映していくことが求
められます。このことは、県や市町村とい
った地方自治体にもあてはまります。

「広報」という用語は、戦後、「パブリック
リレーションズ（PR）」という言葉がアメリ
カから導入された際にその訳語として
誕生しました。そして、行政とPR活動と
は切っても切れない関係にあります。

改めて
広報の役割を
振り返る

200
1970.8-2005.10